

戦略グループ会議 報告書

<p><戦略グループ会議の名称> 北総地域の生物多様性 ・生物多様性ちば県戦略づくりにむけて</p>	<p><参加人数> 56 人</p>
<p><主催グループ名> 北総里山クラブ</p>	<p><代表者名> 長谷川 雅美</p>
<p><実行委員名> NPO法人ラーバン千葉ネットワーク・印西サシバ調査グループ・NPOせっけんの街印西・NPO法人せっけんの街白井・印西・ゴミと暮らしを考える会・白井環境ネットワークの会・白井の自然を考える会・NPO法人しろい環境塾・北総生きもの研究会・東邦大学理学部</p>	<p><共催（協力）団体名></p>
<p><開催日時> 2007年7月20日 19:00～21:00</p>	<p><開催場所> 保健福祉センター(白井市)</p>
<p><会議で話し合われたテーマの概要> “里山に囲まれたまちづくり”をめざして、わたしたちの提案</p>	
<p style="text-align: center;">各グループ会議からの提案</p>	
<p>1. 各グループ会議にとって、生物多様性の保全・再生のための課題は何ですか。</p> <p>地域性の重視：市民団体は足元の自然と地域社会を詳細に把握し、そこから提案を導きます。地域の自然、生物、文化、社会のまとまりを認識し、その地域の生物多様性をどう保全すべきかを考えることが県全域の生物多様性保全のボトムアップに寄与します。そのような理由により、我々のグループは、千葉県北部の北総台地の中でも、白井、印西、印旛、本埜という4つの市町村にまたがる地域（千葉ニュータウンとそれを取り囲む里山）の生物多様性保全を扱います。</p> <p>北総地域の特徴的課題：</p> <p>1) ニュータウン計画の破綻と見直しの欠如が無計画な土地の放出をもたらす</p> <p>都市と田園の共生を謳ったまちづくりは、都市計画だけでは実現しません。都市住民の食料供給や治水、気候の安定化などのエコシステムサービスを支える農村の農村計画が欠かせません。さらに、計画的都市実現のために買収されながらもさまざまな理由により都市開発から除外された土地に残された、この地域本来の生物相を保全し、千葉県はおろか日本全国でも貴重な低地の草原性動植物の保護に寄与することが北総地域の生物多様性保全にとって最大の課題です。企業庁用地が大半を占める印西市武西、白井市谷田地区はその北総の原風景を残し、貴重な生物を育む象徴的地区であり、この地区の自然環境保全を最大の課題とみています。</p>	

まずは、千葉県や日本の生物多様性保全にとって、北総地域の価値が高いことを科学的に示す。その上で、市民の合意、理解を求めながら、次のことを進める。

① 活動拠点づくり・・・広域生態系保護区の指定と
北総地域の活動拠点を設置
——具体的モデル地区として、武西・谷田地区——

② サイクリングロード と パブリックフットパス(公的遊歩道)の整備

③ 里山をつなぐ水系ネットワークの整備

④ 農業支援と地域農業経済の活性化

■子供たちのために、身近な自然とふれあう拠点を確保。学校から 10 分程度でいける場所に作る。

■活動の会があることが最重要で、その会の連携をとっていくこと。

■人、学習、お金、への取り組み

・人・・・活動に参加する人集めに苦労するので、小学生への環境教育だけではなく、高校生・大学生へのダイレクトな実践が必要。

・学習・・・各市各村での同レベルの学習・調査を身につける活動

・お金・・・助成金は全経費の半分までで とても足りない。100%の助成にしてほしい。

■自然があることの価値を共有する。特に公共福祉という面からも意義深いことを訴え、里山保全と社会的弱者への支援を結びつける。

■地主のかたへ配慮した活動が重要。

■北総里山クラブは、連合体の為、各団体の提案を別途添付。

3. 誰が、どのように進めますか。(県民、事業者、行政等の役割)

生物多様性の保全を核としたまちづくりをこの地域に実現するため、私たち市民団体は自発的に連携を深め、課題の共有と提案のための協働を重ねてきました。

この体制は未完成ですが、千葉ニュータウンに芽生えたこの動きを千葉県はサポートし、生物多様性保全の地域戦略を実効あるものとするために都市計画と農村計画を総合化することを提案します。

・北総里山クラブ・・・それぞれの団体が活動する中で 世界、日本、千葉県の
中での北総地域の特性を見極め、“里山に囲まれたまちづくり”:未来のまち
の姿を話し合い、勉強、情報交換し、共有していく。

戦略グループ会議 報告書

- ・ **県** . . . 良好な里山が残る北総地域を《生物多様性保全》のモデルケース地域として指定し、《里山に囲まれたまちづくり》の実現に向け、北総里山クラブや各関係団体と連携をとりながら 里山環境を未来に引き継いでいくバックアップをしていく。
 - ・ 行政機関に環境保全に力量(ノウハウ)のある人を参画させ、問題解決にあたる(官民一体)
 - ・ 生態系に配慮したニュータウン計画や河川計画を住民とともに再構築
 - ・ 活動資金の助成(すべてボランティアという現状からの脱却)
- ・ **研究者** . . . 里山を保全する北総地域の市民団体と協働し、人材育成、情報の提供などに積極的に務める。
- ・ **住民** . . . 就農支援、有機農業の支援、里山保全活動に積極的に参加する。

戦略グループ会議 報告書

07,7,20 タウンミーティングアンケート結果報告

本日は聴講させていただき ありがとうございます。

とても熱い意見が聞けて よかった。いろいろな内容が含まれていて 集約するのが大変だと思いました。今後も議論を重ねてより良い里山が 残ってくれることを望みます。

大変勉強になりました。 今後もこのような会を催してください。

里山保全の必要経費 税の新しい使い方を考える必要があります。

北総地域の生物多様性保全への 活動の連携が進み取り組みが加速されている状況を知り 大変心強く感じた。一方生物多様性の意味を正確に理解する事の必要性も感じた。「コスモス」は生物多様性に反する事を きちんと確認しておきたい。

中村氏のお話良かったです。化学物質の氾濫が 環境、子供達、生き物全てに深刻な問題を起こしている事も 見逃してはならないと思います。

谷田地区のウォーキングをしています。この美しい森を 是非草深の森の如く自然林として管理整備して下さい。県立公園になれば理想的です。又ドッグランなども作ると 人が集り易いと思います。

農家の意見も入れて下さい。

タウンミーティングも 2 度目になった事もあり 具体的で且つ熱のこもった議論、提案がなされた。県への提案内容は大変わかりやすい。ぜひとも実現させたいものだ。参加者はほぼ全て活動当事者である。若い人や住民をひろく呼びこむ為に何をやるべきか どうしたら良いか考える必要がある。たいへん中身の濃いタウンミーティングでした。お疲れ様でした。

北総エリアとして 将来的に印旛村、本埜村を含めて保全してほしい。市民が農業に参加するために 県が休耕田を借りて市民に開放するなどの施策を とってほしい。

戦略グループ会議 報告書

谷田、武西地域の里山を保全することは大賛成です。

この自然環境、田園景観を保全する、「里山に囲まれたまちづくり」構想の中に障がいを持つ人たち、(特に精神疾患を持つ人たち)が何か役割を持てないかと思っています。

タウンミーティングに集まった白井、印西、本埜、印旛地区は精神疾患を持つ人たちへの支援システム(?)がありません。

自然を活かして支援する場を組み込めないでしょうか。

以上